

稱讃二四七号

二〇一三年七月一日発行

ほんがんでんいちじょう

本願円頓一乗は

ぎやくあくせつ

しんち

逆悪摂すと信知して

ほんのう

ぼだいたいむに

煩惱・菩提体無二と

すみやかにとくさとらしむ

『高僧和讃』「曇鸞讃」より

『新しい領解文』の「私の煩惱と仏のさとりは本来一つゆえ そのまま救うが 弥陀のよび声」のもととなったご文（親鸞聖人著の『高僧和讃』）の一首です。「煩惱即菩提」とは、大乘仏教の根本思想だとは言われておりますが、親鸞聖人は、そのまま使いにはなっておりますが、ません。「煩惱・菩提体無二」の解説で、よく引用される同じ『高僧和讃』の「無碍光の利益にて 威徳広大の信をえて かならず煩惱のこほりとけ すなはち菩提のみづとなる」「罪障功徳の体となる こほりとみずのごとくにて こほりおほきにみづおほし さはりおほきに徳おほし」が使われます。私は、それよりも、同

発行 浄土真宗本願寺派 稱讃寺

〒二二一〇〇七五

東京都足立区一ツ家三丁目五番二〇号

TEL 〇三―五二四二―二〇二五

FAX 〇三―五二四二―二〇二六

HP shousanji.com



じ『高僧和讃』の「尽十方無碍光の 大悲大願の海水に 煩惱の衆流帰しぬれば 智慧のうしほに一味なり」が、標語のご和讃の意と共通しているように思えます。「煩惱菩提体無二」とは、煩惱具足の私を、そのまま包んでくださっている阿弥陀さまのご本願（お心）と受け止めるものと思うのです。『新しい領解文』の「ゆえ」が大変な誤解を招き、もともと煩惱と菩提（仏心）が同じだから、仏さまの側から「そのまま救います」というのを、私の方で「このままでいいんだ」と誤解してしまいそうです。

阿弥陀さまのご本願は、罪惡深重煩惱熾盛の私を見捨てることなく救ってくださっていると言知（しらされ）て、阿弥陀さまのご本願のお心に、私の煩惱がそのまま包み込まれている証として、私のところに、私の口から「南無阿弥陀仏」が現れているという事実を味わうことではないかと思えます。「さとらしむ」という言葉は「味わう」と捉えてみました。

このご和讃は、

本願力にあひぬれば

むなしくすぐるひとぞなき

功徳の宝海みちみちて

煩惱の濁水へだてなし

『高僧和讃 天親讃』

に通ずるものであります。

「本願力に遇う」ということ、「阿弥陀さまのご本願を信じる」ということが、また難しいことであります。「疑い」のころしか持ち得ない私だからこそ、「恩愛はなはだ絶ちがたく、生死はなはだ尽きがたき」私だからこそ、仏さまは私の所に「還来」しておられるのだと味わって参りたいと思います。

「私たちのちかい」に寄せて

雪山 俊隆氏

Zengyou. Net

「住職コラム 法話」

二〇二二年一〇月一日より

- 一、仏の子は、すなおにみ教えをききます。
- 一、仏の子は、かならず約束をまもります。
- 一、仏の子は、いつも本当のことをいいます。
- 一、仏の子は、にこにこ仕事をいたします。
- 一、仏の子は、やさしい心を忘れません。

この言葉は、お寺の子供会「日曜学校」で推奨されている「ちかいのことば」で、善巧寺では年に数回の子供会で唱和していた。高学年になるとこれを読むのがとても嫌だった記憶がある。いつからか、「ひとつ、仏の子は、いつも本当のことを言いません！」と言い換えて友だちと顔を合せて笑っていた。みんなで真面目に唱和することへの反抗心か、そう出来ない自分を突き付けられることへの反発だったのか。

先日、本願寺より新しい「私たちのちかい」が発表された。冒頭に添えられた言葉には、「大智大悲からなる阿弥陀如来のお心をいただいた私たちが…」とあるので、阿弥陀如来のお心をいただいている人限定のお言葉と受け取るが、文末には、「中学生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗のみ教えにあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会で唱和していただきたい」とあるので、ピンポイントに絞って作成した言葉を、多くの人に触れてもらいたいという願いがあるようだ。これをもって、浄土真宗とは

こういう指針を持った教えですよということを伝えたいのかもしれない。ここにその言葉を紹介する。

「私たちのちかい」

- 一、自分の殻に閉じこもることなく、穏やかな顔と優しい言葉を大切にします、微笑み語りかける仏さまのように
- 一、むきぼり、いかり、おろかさに流されず、しなやかな心と振る舞いを心がけます、心安らかな仏さまのように
- 一、自分だけを大事にすることなく、人と喜びや悲しみを分かち合います、慈悲に満ち満ちた仏さまのように
- 一、生かされていることに気づき、日々に精一杯つとめます、人びとの救いに尽くす仏さまのように

中学生から大学生までに触れて欲しいというだけに、子供バージョンよりもかなり難易度があがっている印象だ。冒頭の「自分の殻に閉じこもることなく」という言葉で、自分の殻に閉じこもる私を突き付けられ、続けて、すぐに眉間にしわが入り、人をのしる私の姿があらわになる。一つ目の誓いからかなりハードルが高く、子供バージョンよりも、より具体的にそう出来ない自分を意図的に知らせている印象を受けた。子供の頃を思い出し、さつそく、言い換えの遊びをやってみた

「本当の私」

- 一、自分の殻に閉じこもり、眉間にしわを寄せ、人をのしり、そんなどうにもならない私を、仏さまはそのまま受け止めてくれます
- 一、むきぼり、いかり、おろかさに流され、しなやかな心と振る舞いを持ってない私を、仏さまはそのまま受け止めてくれます。

- 一、自分だけを大事にしてしまい、人と喜びや悲しみを分かち合えない私を、慈悲に満ちた仏さまはそのまま受け止めてくれます。

一、生かされているとは思えず、日々に苦しむ私を、仏さまはそのまま受け止めてくれます
不思議なことに、反対に読んでみると、阿弥陀如来の大きな慈悲の心が浮き彫りになり、浄土真宗の特徴のひとつを端的にあらわしているように感じた。なるほど、これはもしかすると、こう読むべきものとして作成されたのかもしれないと思うほど。ただ、原文は、子供バージョンとは比較出来ないほどに自分を突き付けられて「ダメな自分」という見方を与えてしまう可能性がある。元氣な人向けの言葉で、苦しむ私を置き去りにされた気分になる。しかも、「大智大悲からなる阿弥陀如来のお心をいただいた私たち」が主語になるので、様々な人が集まる場で唱和するには無理があると言わざるを得ない。

奇しくも、本願寺では「若者の生きづらさ」に焦点をあてた研修会を開いたり、「寄り添う」という言葉を多用して、困っている人たちへ手を差し伸べていくことを推奨している。今まさに闇の真ただ中にいて、自分の殻に閉じこもらざるを得ない人たちは、この言葉はとても厳しい。やもすると、上司から部下への強すぎる指導のように受け取ってしまうかもしれない。あるいは、数多くある「ちかいのことば」と同様に、風景が流れていくように言葉も流れていくのだろうか。

学校にも、会社にも、市町村にも、世の中には形骸化された理想や指針があふれている。おそらく多数がひとつの方向を向いていた時代には有効なものだったのかもしれないが、声をあげられず置き去りになった人たちへ少しでも目を向けよう

としているのが「いま」だと思う。本願寺も同様に、把握出来ないほどの「ちかいのことば」があるが、多様化という言葉が定着して、苦しんでいる人たちの眼差しが重要視されつつある現代で、これらの言葉は「生きた言葉」になり得るのだろうか。時代に合わせる意図があるのならば、今だからこそ、「道徳」の先にある「どうにもならない私」に向けた救いの言葉を届けてほしいと説に願う。

絶えることのないお育て

―介護現場のただ中で

仏さまに導かれて歩む―

『本願寺新報』二〇二三年六月一日号本願

成田 智信 氏

後悔だけではない

先日、お寺が運営しているデイサービス（通所介護）の職員会議がありました。その時に、十年來お勤めになっている職員さんから、こんな発表がありました。

「ここに勤めて、後悔だけではない死の受けとめがあることに気づきました」
とても心に響きました。

二〇〇五年四月、私が住職を務める善了寺を運営母体としてデイサービスを立ち上げて、まもなく二〇周年を迎えようとしています。定員十人の小規模な、お寺まるごとのデイサービスです。

阿弥陀さまの恵みの中で、多くの皆さまとの出会いに恵まれ、ここまで続けることができました。それこそ、ここに通ってくださったお一人お一人、お手伝いいただいたご門徒のお一人お一人、二〇

年ともなりますと、お亡くなりになる方々も多くなります。発表してくださった職員さんは、前職の経験を踏まえて、お話ししてくださいました。

「生かすことだけを考えていると、死や老いは後悔しか生まないです。いずれ、衰えなくなるのは目に見えているのに、まだ出来たことがあったかもしれない、と人の死を後悔だけで受けとめていました」

その職員さんが十年間というお寺のデイサービスの中で、「後悔ばかりではない死の受けとめがある」と気づかされたのです。私は、報恩感謝の思いで心がいつぱいになりました。阿弥陀さまの尊いお育てのおかげとしか思えませんでした。

お育てをいただいたのは私自身も同じです。御同朋・御同行と手を合わされた親鸞さまのお姿が思い浮かびました。

親鸞聖人は『唯信鈔文意』に、「南無阿弥陀仏は如来の智慧のはたらきとしての名号であるから、この不可思議光仏の名号を疑いなく信じ心にしたもつとき、観音菩薩と勢至菩薩は、必ず影がその姿に付添うように離れないでいてくださるのである。この無礙光仏は、観音菩薩としてあらわれ、勢至菩薩として姿を示してください」（現代語版『唯信鈔文意』6頁）と示してくださいます。

親鸞聖人は、阿弥陀さまの智慧のはたらきである名号をいただいて、恩師・法然聖人のことを勢至菩薩がこの世に現れてくださったお方だといっただから、聖徳太子を観音菩薩の化身とお受け取りになりました。

「私たちのちかい」

「阿弥陀さまにおまかせして生きる」この身の上には、尊い出会いが恵まれているのです。その功德は広大です。すでにお浄土に往生されて仏となら

れた多くの方々も、お浄土から私たちのもとに還り来て、仏さまの智慧と慈悲を具体的に現す菩薩さまとしてお導きくださいます。すべて他力のはたらきの中に、煩惱具足の私たちが、絶えることのないお育てをいただきながら、むなしく終わらぬ、往生浄土の人生を送らせていただくのです。

毎朝、職員さんとデイサービスのお仏壇の前で、ご門主がおすすめくださった「私たちのちかい」四カ条を唱和させていただきます。最初のきつかけは、住職の私が紹介したことでした。でも、今回の職員さんの発表があった会議の後で、皆さんで話し合っ、あらためて、みんなで唱えたいと言ってくれました。

本当にうれしく思いました。私は今ここにいるものだけではなく、阿弥陀さまのはたらきによつてお浄土から還られた多くの方々にお導きをいただいているのだと味わいながら唱えていたからです。

「一、自分の殻に閉じこもることなく、穏やかな顔と優しい言葉を大切にします。微笑み語りかける仏さまのように」一筋縄では行かない介護現場の中で、さまざまな悩みを抱える私たちを決して独りにすることなく、今ここで、仏さまは微笑み語りかけてくださいます。「この道を行きなさい。私もともにいるよ」と。

お念仏を称え、お聞かせいただき、多くのお育てをこの身に味わいながら、みなさんと一緒に四カ条のお言葉をいただいてまいりたいと思います。絶えることのないお育ての中に報恩感謝の日暮らしが恵まれます。恵みに報いていくのは、暮らしの現場です。常にすべてがお聴聞のご縁だといた

だいてまいります。
今日も一日精いっぱい、報恩感謝の日暮らしを歩ませていただきたいと思ひます。

令和4年度 稱讃寺 活動報告

令和4年4月1日～令和5年3月31日

総参拝数 132名（前年度81名）

〈恒例法要〉 32名（前年度13名）

5月21日（土） 親鸞聖人降誕会 3名参拝 お話 住職

7月10日（日） 永代経法要 3名参拝（前年度2名） お話 住職

8月11日（木） 孟蘭盆会法要 2名参拝 お話 住職

9月25日（日） 秋季彼岸会法要 8名参拝（前年度4名）

お話 赤松秀敏氏（東京都済生会中央病院・医師）

12月18日（日） 報恩講 5名（前年度2名） お話 住職

3月19日（日） 春季彼岸会法要 11名参拝（前年度5名） お話 住職

〈のんのん法話会〉 19名（前年度23名）

〈参拝者数〉 81名（前年度45名）

（参拝） 3名（前年度8名）

（法務 内勤） 78名（前年度37名） 18件（前年度14件）

〈行事〉 3名（前年度0名）

6月11日（日） 中島隆信先生と語る会 3名

〈門徒総代会〉

6月5日（日） 3名出席 後日2名より署名捺印

〈法務 外勤〉 55件（前年度 48件）

〈布教〉 5件（前年度2件）

〈法助 他寺院法要出勤〉 25件（前年度 23件）

〈本山・教区・組・その他〉

11月15日（月） 築地本願寺報恩講出仕（日中・逮夜）

8月12日（金）～16日（火） 鹿児島・稱讃寺孟蘭盆会法助

10月27日（木）～11月1日（火） 鹿児島・稱讃寺永代経法座

※一昨年度（コロナ禍）に比べて、法要件数並びに参拝者数は増加いたしました。
しかし、法話会（のんのん法話会）は親鸞聖人のご命日（毎月16日）を除き、殆どお参り、ご聴聞はありませんでした。法話会の工夫を講じる必要があります。

令和四年度

稱讚寺会計報告

二〇二三年四月一日～二〇二三年三月三十一日

〈一般会計〉

総収入	五, 六七九, 九七七円
総支出	五, 四七一, 六四二円
余剰金	二〇八, 三三五円

〈収入の部〉

布施収入	三, 一九一, 〇〇〇円
法務布施	二, 七二八, 〇〇〇円
参拝布施	三九五, 〇〇〇円
お斎料	六八, 〇〇〇円
法助収入	一, 九七七, 〇〇〇円
法務法札	一, 四五七, 〇〇〇円
布教法札	四一〇, 〇〇〇円
お斎料	一一〇, 〇〇〇円
別収入	一〇二, 五三二円
会費	一九二, 〇〇〇円
雑収入	一〇, 〇〇六円
売電	〇円
その他	一〇, 〇〇六円
前年度余剰金	二〇七, 四四〇円

〈支出の部〉

寺院維持費	二, 二二四, 四九五円
公費	三二五, 四〇六円
宗派課金	一七六, 二九四円
公租公課	六二, 八五〇円
諸年会費	八六, 二六二円
維持管理費	一, 八八九, 〇八九円
莊厳費	七八, 九九六円

寺院運営費 伝道教化費

講師謝礼費	三, 二五七, 一四七円
教化費	四一三, 六四四円
研鑽費	五〇, 〇〇〇円
法要・行事費	九六, 四〇〇円
お扱い費	七八, 四七〇円
活動移動費	一〇九, 二四一円
接待費	五三三円
庶務費	二二八, 四四九円
事務費	二, 九七八円
通信費	七二七, 五五九円
インターネット費	一一一, 三〇四円
送費	三, 〇二五円
印刷費	八六, 一三〇円
広告費	二五〇, 〇九二円
購読受信費	一六三, 八七二円
ホームページ費	九九, 〇〇〇円
ホムページ費	七五, 四八五円
渉外費	一三, 八六〇円
交際費	二五五, 五五〇円
慶弔費	五三, 五五〇円
寄付金	一五二, 〇〇〇円
法要懇志	〇〇〇円
人件費	五〇, 〇〇〇円
住職給与	一, 六四八, 九六七円
年金健康保険	一, 一二七, 五九五円
年金健康保険	五二一, 三七二円

〈特別会計〉

収入 二九九, 二〇五円

懇志

一時遺骨預かり管理 二二九, 二〇五円

永代使用料積立金

三五, 〇〇〇円

前年度繰越金

二五, 〇〇〇円

支出

一, 五五六, 〇〇〇円

振興金庫返済金

五四一, 二二四円

余剰金

一, 三二三, 九八一円

○当寺へ直接依頼される法務お布施の収入は、以前の収入額に戻ってきました。これは件数が以前より増えたものであり、一件単位のお布施額は減少ぎみであります。また、当寺への直接のお葬儀依頼は一件のみでした。

○他寺院からのお葬儀の法助は、十四件ありました。一日葬や釜前読経のように、まだ、コロナの影響もあり、簡略化しております。今後も簡略化は進むものと思われまます。前身の布教所設立の当初から、将来的にも法務収入だけでは寺院運営は成り立たなと思っておりますが、何ら策を講じてこなかったことを反省します。

○布教については、コロナ禍より依頼がありました。自身の研鑽不足もあろうかと反省いたします。

○今回、三十二名の方が会費を納めてくださいました。並びにご懇念もいただき、ありがとうございます。これが、五十名←百名←二百名となれるよう、努めます。



トップページ > 非公開: 稱讃寺

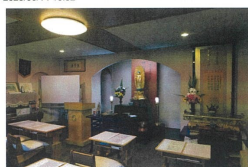


目次

- ▼歴史
- ▼住職インタビュー
- ▼葬儀、法事・法要
- ▼お墓
- ▼イベント情報

歴史

2023/06/14 10:52



ちは分かるが、教会にするため、組織人として、御絵像を安置してもらいたいとのご助言で、本願寺より御絵像を貸与していただき、ご安置させていただきました。2009年にご本尊入仏式を厳修するのですが、その間、あるご門徒さんより、早くお木仏の阿弥陀さまをお迎えしてほしいとお声があり、古仏を譲渡してもらうことを探ってみました。門徒総代さんより、新しいお寺だからご本尊も新しく迎えたらとご意見くださり、一気にご本尊をお迎えする気運が高まりました。

2008年11月15日、築地本願寺報恩講に参拝されたご門徒さんに、当寺でのご本尊の鑿入れ式、ご入仏式の日程が決まったことを報告いたしました。その翌日でした、報恩講御満座のお晨朝が終わった時、最初に「早くご本尊をお迎えしたい」とおっしゃられたご門徒さんが往生なさったと伴侶の方(現・門徒総代さんのお

住職インタビュー

■阿弥陀様のご本願を、いま再び深く考える

鹿児島島の稱讃寺の次男として生まれた私は、将来は僧侶にと、中学生くらいまでは考えていました。しかし、その後その気持ちは薄れて



住職インタビュー

一人)よりご連絡をいただきました。開所から6年、当初は、まだ時期尚早かとも思っていました。が、ご縁あってこうしてこのお寺にご本尊をお迎えできましたことはとてもありがたく、あのお言葉がなければ未だご本尊をお迎えしてなかったのではないかとご住職は語る。

再び僧侶になることを意識したのは、大学に入学してからのことだったと思います。専攻したのが真宗学科で、クラブは宗教教育部だったことから、実家が浄土真宗の寺院だという友人も多く、私も少しずつ影響を受けていったのだと思います。それから、大学院で学ぶうち、私自身も阿弥陀さまのご本願を親鸞聖人をもっと知りたいと思いました。その後、本願寺宗務所に6年奉職し、差別をはじめ、非戦平和等、社会問題への取り組みを知らされました。また築地本願寺にも6年奉職し、法務の意義を知らされました。机上だけでなく、社会とのかかわりの中で、学ぶうちに、あらためて親鸞聖人という方の社会思潮に迎合しない姿勢、また普遍的な教え(浄土真宗のお念仏)に魅了されました。

築地本願寺が「めざせ！100万人門信徒」を掲げたことに賛同して、その一端を担おうとの思いから、都市開教で現在の足立区の場所を拠点に、地域の役員をつとめながら、市民に寄り添い地域社会の福祉に努める「民生委員」の活動を18年続けました。また、ターミナルケアに関わりたいたい「浄土真宗 東京ビハール」

去る5月8日(月)に、築地本願寺さんから、築地本願寺WEBサイトの「TERA MACHI」に当寺を紹介していただくため、取材を受けました。6回程、文章を修正いただき、住職の顔写真も修正されているかも？

もう間もなく掲載されることであります。ホームページをご覧にならない方もいらっしゃると思いますので、一足先に、寺報で掲載内容をご紹介します。

の活動に20年間、参画してまいりました。

そうした取り組みに携わり、また住職として過ごす日々の中で、ここ数年は再び阿弥陀さまのご本願について深く聞思していきたいと思うようになりました。親鸞聖人は、現代の私たちにどのようなことを言わんとしておられるのか。『教行信証』や『歎異抄』をはじめ、ご聖教の真の素晴らしさを私自身は本当に理解しているのか。本当にしっかりと腹に落ちる解釈ができていいのか、自分に都合良く解釈しているに過ぎないのではと、反省します。直接、阿弥陀さまのご本願を聞けない、`疑情、しか持ち得ていない私は、親鸞聖人をはじめとする浄土真宗のお念仏に帰依された七高僧のお言葉を信じる以外に阿弥陀さまの大きな慈悲と智慧を味わう術はないのでしょうか。(唯可信斯高僧説)

■毎月寺報の発行、いつでもどこでも参拝システムも導入

布教所を開設する2003年1月から、毎月欠かさず寺報を発行しています。時節や時事、法要行事と組み合わせながら、今このとき私が感じたことなどについて記しています。できるだけわかりやすいよう、読みやすいよう心がけていますが、`難しい、とのコメント(難しくしているのは、私自身が本当は理解していない証なのでしょう)を頂きますが、`楽しみにしている、とのお言葉に励まされ、発行が多少遅れても作成してきたことだけは、`やった感、があり、続けられています。当寺院のウェブサイトからも読んでいただけますので、ご関心のある方は是非開いてみてください。

また、当寺院では、外からの参拝のシステムを導入しました。これはスマートフォンの防犯カメラのアプリによって、リアルタイムにお寺の様子を見ることができるといえるものです。このシステムを介して、ご参拝が難しいご門徒様も浄土真宗に興味を持たれている方も阿弥陀さまの前で手を合せることができ、法話会にも参加することが可能になります。なかなかお寺に足を運ぶことが難しいとお思っている方にも、こうしたシステムを利用して、ご本尊に手を合せていただけたらという思いです。このアプリを取得するには、当寺院のウェブサイトをご覧ください。

寺報をお届けするのも、遠隔参拝システムも、その根本には、ご門徒様とともに阿弥陀さまのお慈悲を味わっていく場を、日々の生活のなかでつくりたいという思いがあります。現代の社会を生きる私たちには、ままならないこともたくさんあります。しかし、阿弥陀さまは、私たち誰一人もらすことなく、大切に見守ってくださっています。「南無阿弥陀仏」のお念仏を通してそのことを聞き続ける(相続する)以外にないのかと思います。私自身、真実の教え(浄土真宗のお念仏)についてさらに聞思し、親鸞聖人その方を信じて参りたい。

葬儀、法事・法要



葬儀、法要を行っています。20人ほどの方が一堂に集まっていただけます。また、ご自宅他式場にも訪問させていただきます。最初の頃、ある寺院から、葬儀のおつとめに、「みほとけにいだかれて」をうたうようにとのご依頼がありました。おつとめが終わり、葬儀控え室に戻り着替えていたら、参列していた女の子がその歌を口ずさんでいました。以来、それに倣って、葬儀・法要では、必ず法話の後、歌うようにして、仏さまのお心を味わえる

お墓

墓所はなく、一時的にお骨をお預かりしています
年間管理5000円

機縁となれるようにつとめています。

イベント情報



法話会「のんのん法話会」(毎月16日午後2時～) 住職による法話会が中心ですが、お彼岸、永代経、報恩講では、浄土真宗の僧侶の方に出講してもらったり、ときには外部の先生(終末期医療の医師、宗教に関する著書のある大学教授など)をお招きすることもあります。親鸞聖人のお言葉や阿弥陀さまの大慈悲・大智慧について、共々に味わえたらと思っています。

2023年度 門信徒会費並びにご遺骨一時お預かり費

門信徒会費 6千円 お預かり管理費 5千円 永代使用積立金 5千円から

振込先 城北信用金庫 一ツ家支店

名 義 浄土真宗本願寺派 稱讃寺教会 代表 北 村 信 也

口 座 普通 6176051

または

振込先 ゆうちょ銀行 店 名 四四八(ヨンヨンハチ) 店

名 義 キタムラ シンヤ

口 座 普通 237485

編集後記（愚案）

二〇二三年「心のもしび」七月カレンダーより

記

振込郵送 稱讃寺（同封の依頼状をご参照ください）

『浄土真宗に還る』（橋本徹氏著・本願寺派僧侶仏教タイムズ取締役編集長歴任・二〇一五年発刊）に著者は、「本章で書いてみたいと思う「正しい大人」とは、浄土真宗に還ることを意味します。それはどういうことかという、次のように考えています。自分が時代社会に生きている、存在している。その事実を他者のみならず自然とともに、自分の責任として担えることです。・・・と綴っておられる。また、「私たちのちかい」について本願寺より出されたコラムには、「人は皆、幸せを願って生きています。しかし、もう少し正確に言くと、人は皆、「自分の幸せ」を願って生きているのではないのでしょうか。ところが、「すべての人の幸せ」を願い、はたらく続けてくださっている方がいらつしやいます。それが阿弥陀如来という仏さまなのです。この仏さまの願いに出遇った時、「自分が幸せだったら、他人はどうでもいい」「好きな人には幸せになってほしいけれど、嫌いな人はどうでもいい」と思っている、自己中心の自分に気づかされます。そのような自己中心の心から離れられない私たちはどのように生きていったらいいのでしょうか。仏さまと同じには成れないけれど、仏さまの願いが尊い願いである、と受け止めて生きていくことは出来来ます。そして、そこに、仏さまのまねごとしか出来ないけれど、できる限りのことをさせていたたくという生き方が、生まれてくるのです。それを具体的にに表現したものが、「私たちのちかい」なのです。これらは阿弥陀さまのお心に触れられた「積極的な生き方」というものでしょう。そして責任逃れしていい私への檄なのかも知れません。しかし、阿弥陀さまの願いとは、正しく生きなさい、そうすれば、私のようになればよいということなのでしょう。差別化が生じそうです。「どんな人生を送ろうとも、必ず、仏に致します」というのが、阿弥陀さまの誓いであり、願いののではないのでしょうか？これってあまえにすぎないのでしょうか？本願ばかり？ででしょうか。